

令和5年度第2回森町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和6年3月22日(金) 14:00～14:50

場 所 森町公民館 1階大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

川村企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業調書について

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書を用いて、事務局から既存事業の実績及び今後の方向性について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

本計画の計画期間が残り1年となり、来年度で一区切りとなるので、これまでの内容を踏まえて意見や感想等を伺いたい。各委員で専門分野等あると思うので、そちらについて後ほどお聞きしたい。まず私からだが、森町は多くの大学が来ており、地方でこれだけの大学が集まるというのは聞いたことが無いので、素晴らしいことだと思う。だが、せっかくの機会なので、彼らと町内の学生たちとの交流の場を設けられないだろうかと思った。外から来た学生が森町の魅力を伝えることで、地元への愛着が湧くのではと考えているが、実現できそうか。

事務局

今の話を聞いていて、町内の学生にも進路等を考えるにあたって刺激となるような経験だと思うので、こちらとしてもやってみたいと思ったので、当課で学生と関わる際には積極的にそういった話をしていきたい。また、その次の段階のタイミングで、学校側の体制等に係る調整等も行いたいと思う。

遠藤委員長

学校側の体制も整っていないと難しいので、相談や調整をしてもらえればと思う。

それでは、皆様から伺いたいが、丹崎委員はどうか。

丹崎委員

私からは数年間を通しての感想だが、外から人を呼び込むことについては、事業も増えて

きたのだが、今いる人たちの所得が向上するような事業も出してほしい。新規採用者向けの賃金は上がっているものの、既存の労働者についてはあまり上がらないということが話題になっているので、そういった部分についても対応する必要があると思う。

事務局

事業の中でも1次産業についてはボリューム感が出てきたが、地域の事業者等の就業先への取組も必要になると思うので、貴重なご意見として承る。

遠藤委員長

次に伊藤委員お願いします。

伊藤委員

計画について、来年度が最終年度ということで、新規事業等の組み替えをして新しいものを進めると思うが、例えば「UIJ ターン新規就業支援事業」について達成率が0%だったり、「森高校との連携による若者定着促進事業」についても予算はあるものの達成率が0%ということで、達成率が芳しくないものについてはやり方等を見直して結果が出るようなものを考えてほしい。また、「森町入学・卒業祝金支給事業」の内容から人がかなり減っているのが目に見えてわかる。事業者でも働き手不足が切実な問題であるので、外から呼び込むか、ニーズのミスマッチへの対策が出来れば地域の活性化につながると思う。どちらにしても最終年度なので、漠然としているが、もう少しドラスティックなものを取り入れて、結果が出てくればと思う。

事務局

委員のおっしゃった実績の出ていない事業については原課含めてこのままではいけないということで、次の計画に向けて早急に動く必要がある。後ほど触れようと思っているが、次の計画ではそれらの事業をそのまま移行するわけではなく、今回の振り返りも含めて効果的なものとしていきたい。また、「森高校との連携による若者定着促進事業」について、運営協議会の中でも議論をしており、早急に動きたいと思う。

遠藤委員長

次に森永委員お願いします。

森永委員

私は今回が委員会への初めての出席となるが、多くの事業に取り組んでいる印象を受ける。中でもSDGsの推進については、私共でも活動している部分があるので、できることがあれば積極的にお手伝いしたい。また、他の方と重複しているかもしれないが、複数の大学がインターンシップに来ていたということで、どれくらいの期間でどの企業に参加したのかお聞かせいただきたい。

事務局

SDGsについては、現在ゼロカーボン等が注目されている中で停滞しているので、お力を

お借りしながら取り組んでいきたい。インターンシップについては、現在北海道教育大学函館校と武蔵野美術大学と協定を締結しており、前者は2週間、後者は1ヶ月の期間で来ており、その他の大学については地域おこしインターン生として来ているので、本人が2週間以上3ヶ月以内で活動したい期間を受け入れている。企業参加の部分については、まずは行政で受け入れて、町の情報を提供した中で本人が興味のある事業者を紹介し、活動するという流れなので、受け入れる企業が決まっているわけではない。

森永委員

今まで農業・漁業等を希望する学生はいたのか。

事務局

最近は農業に興味のある学生も来ており、その場合は農林課を経由して農協で農業の紹介や、農家の見学・体験等も実施している。

遠藤委員長

次に西尾委員、学校からの目線で意見等あればお願いします。

西尾委員

学校教育の場合は、将来森町を担う人材の育成が重要であるので、子供たちが町の良さを体感できるよう検討している。その中で森高校が様々な取り組みを行っているので、そちらと連携した事業があれば、森高校に進学し将来の町を担うという意識が高まると思う。

遠藤委員長

途中ではあるが町長が退出されるので、町長からお願いします。

岡嶋町長

途中での退出となってしまったため、先にコメントさせていただく。後ほど説明があるかと思うが、今後はデジタル田園都市国家構想とコネクションしていく。デジタルという言葉が出てくるが、基本のまち・ひと・しごとの方向性は変わらないので、重視すべき点、特に人にフォーカスして内外からの挑戦・刺激による相乗効果を生むような、特色ある森町にしなければならないと思う。これは会議の際に毎回話しているが、企業版ふるさと納税を集めることに直結するので、担当課含め委員の皆さんの意見もいただきながら事業をブラッシュアップしていかなければならないと捉えている。

また、会議後に春澤さんからの報告があるが、彼女は森町が好きで積極的に挑戦し、様々な方に表現する、いただいた質問等の内容を地で行く人物なので、時間があればぜひ聞いていただきたい。

遠藤委員長

それでは引き続き、山田委員お願いします。

山田委員

農協としては、昨年福島大学の受け入れを行い、意見交換や施設見学を行った。学生たちはあまり施設の機械等を見たことがないということで、興味を持ってもらえた。最後に話をしたが、現在新規採用が集まらず、新函館としては30名の募集に対し9名しかいなかったもので、ぜひこのような機会を設けてほしい。

事務局

最近は農業に興味があるという学生が多く、農林課を通して見学等での協力をお願いしているが、今後もそのような学生が来る場合は話をしていきたいと思う。

遠藤委員長

岩島委員お願いします。

岩島委員

私としては、「木造公共施設「森町モデル」」について、以前参加したことがあるが、具体的な計画性が見えないという印象があった。それに関連して大卒の話だが、大きな計画がはっきりしていないと感じる。本計画は今後の森町の指針となると思うので、様々なものに目を向けなければいけないだろうが、より人を呼び込むために他の自治体よりも図抜けた目玉のような、一本の芯を作してほしい。

また、先日コミュニティ・スクール等でも話があったが、学生数の減少に係る問題についても、今後町や大学生と連携し、言葉だけではなく実動していき、皆様とも話していきたい。

事務局

本計画は人口減少に特化した計画ということで、最上位計画に紐づくものとして進めている。その中で、伊藤委員のお話にもあった子供の減少についてだが、もちろん多いに越したことはないが、限られた子供にフォーカスし、どうしていくかであったり、そこからさらに外からどう呼び込むか、そのような選ばれるまちづくりが今後の課題である。したがって、目玉については、町の執行方針にもある子育てが当面のものとして進められると思う。

遠藤委員長

子供が少なければ、その分一人にあたる周囲の人も多くできるので、町全体で何か子育ての取組が出来ればと思う。

最後に佐藤委員お願いします。

佐藤委員

「子育て応援プロジェクト」について、新生児への積み木等は今後生まれた子供全員に配るということではできないのか。仕事等の事情で参加できない親もいるため、木工等に携わっている地域おこし協力隊から全員へ配布するというのはどうか。

次に、「みんなでつくる地域公共交通プロジェクト」について、巡回ワゴンバスの乗車率はどのような状況か。予定人数より少なく赤字が出ても続けていくのか。

また、幼少から学生まで木育に関わる機会のある森町だが、卒業後にそれらで学んだことが生かせる場所が無いので、そのような人を後押しして、町に残れるような企業等があればいいと思うが、何か考えはあるか。

事務局

1点目について、現状では聞き取りを行い、希望者は全員もらえるようにしている。その中で製作も行いたい方にはワークショップを開催しており、強制配布ではないが全員に配れる体制は整えている。

3点目についても検討していかなければならない課題で、現在は道南の木育マイスターという団体があるが、働き口の展開についても原課に共有していきたい。

2点目のバスについて、具体的な数字は持ってきていないが、1便当たり3人程度が現状である。乗車数は芳しくないが、生活の足に困っている方もいる中、町として取り組むべきことであると思うので、国の補助等も受けながらできる限り継続していく。

遠藤委員長

町民への周知等はどうか。

事務局

広報誌等で行っているが、皆様からも周知していただければと思う。

遠藤委員長

広報誌については見ない人も多かったりするので、周知方法も検討したほうがよい。口コミが一番良いかもしれない。

② 今後のスケジュールについて

令和6年度が計画最終年度ということで、6年度中に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」への移行に向けた準備を行う。

令和6年度第1回の開催について、開催時期は令和6年10月を予定。

4. その他

5. 閉会